

軽量



Zettlex

誘導式エンコーダー

IncOder™ CORE

誘導式エンコーダー

コンパクト・軽量
誘導式リングエンコーダー

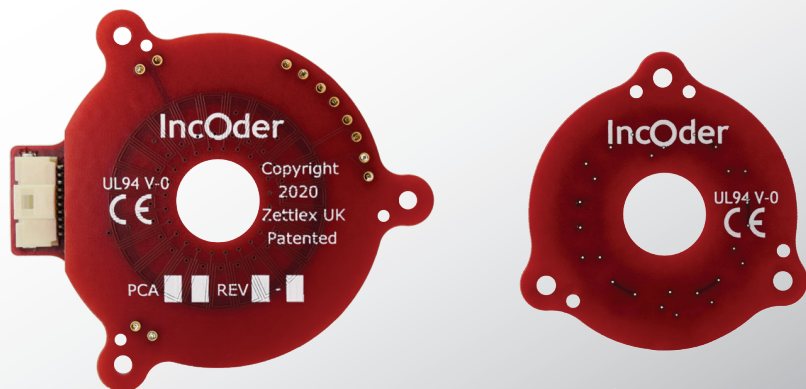
IncOder™ COREはロボットジョイント用に設計された堅牢な小型 PCB ベースの誘導式リング エンコーダーです。

› [CELERAMOTION.COM/JA/](https://celeramotion.com/ja/)



IncOder™ CORE

軽量・コンパクト 誘導式リングエンコーダー



アブソリュート・軽量

IncOder COREは、プリント基板 (PCB) に完全内蔵された非接触型・軽量の絶対回転エンコーダです。中空構造のエルゴノミックデザインにより、回転アクチュエータへの組み込みに最適です。独自の実績あるインダクティブ方式を採用し、高い繰返し精度と信頼性、優れた温度安定性を実現しています。

仕様概要

- 構成：パッシブロータ（ターゲット）+アクティブステータ（電子回路内蔵）
- 取り付け：M2ネジ穴による簡単な固定（オプションで位置決めピン対応）
- コネクタ：10ピン Molex PicoClasp（軸方向または径方向）
- 出力：最大17ビットの絶対位置データ（SPI、BiSS-C、SSI対応）
- ゼロ点設定：プログラマブル

特長

- 軽量・コンパクトなPCB構造
- 高精度な取り付け不要
- キャリブレーション不要
- 中空構造で設計自由度が高い
- 高い繰返し精度の位置フィードバック

利点

- システム全体の軽量化と省スペース化
- シンプルな取り付けで生産性向上
- OEM製造コストと時間の削減
- 回転アクチュエータへの最適化設計

仕様	IncOder CORE
ローター外径（ネジ穴 PCD）	35.6 mm (36mm)
ステータ外径（ネジ穴 PCD）	44 mm (56.8 mm)
ID	10.4 mm
高さ	13.1 mm
取付	0.5 ± 0.2 mm ギャップ 最大0.2 mm ラジアルオフセット
通信プロトコル	SSI, BiSS-C, SPI, Async Serial
解像度	10 - 17 ビット
精度	0.1°
再現性	± 1 LSB
最高速度	10,000 rpm
供給電圧	5-12 VDC
消費電流	<100 mA
測定更新レート	10 kHz
動作温度	-20 to +85 ° C
温度係数	<1 ppm
質量	2.8g (ターゲット) 11.8g (ステータ)
コネクタ	10-way Molex PicoClasp



Zettlex

誘導式エンコーダー

ノヴァンタ・ジャパン株式会社
〒140-0013
東京都品川区南大井六丁目20番14号
イーストスクエア大森

代表：
03-5753-2460

www.celeramotion.com/ja/

RoHS
CE

IncOder™ CORE

軽量・コンパクト 誘導式リングエンコーダー

IncOder CORE 取付ガイド

IncOder COREは、ローターとステータのペアで構成されています。正確な動作を確保するため、以下の点にご注意ください。

■ 取付けに関する注意事項

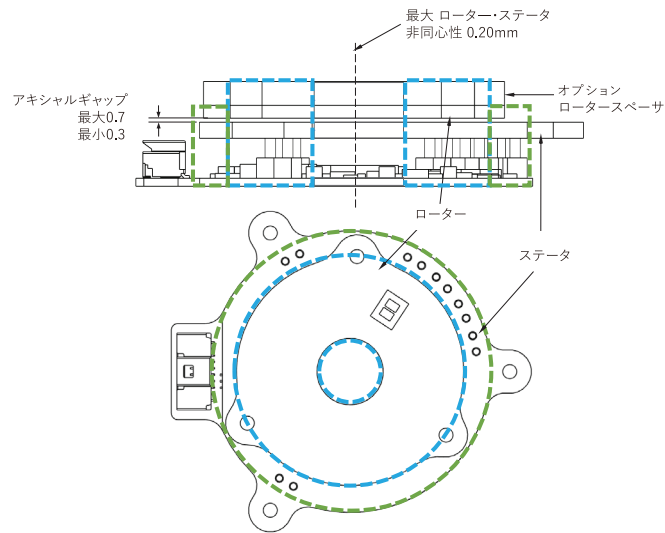
- ローターとステータは、指定された取付け公差内で設置してください。
- 金属排除ゾーン（図中の青・緑の破線領域）を考慮する必要があります。
- このゾーン内（ローター面から半径3mm以内）には、導電性または磁性のある物体を配置しないでください。
- 中央のホストシャフト、ローターの取付けネジおよび位置決めピンは例外です。
- 金属排除ゾーンを確保するために、非金属製スペーサー（図参照、製品には含まれません）を使用することを推奨します。

■ 推奨取付方法

ローターとステータの位置決めピンを使用して位置を決め、付属のネジ穴を使って固定してください。

■ ご相談について

金属部品が排除ゾーン内に存在する設計を検討されている場合は、Celera Motion (Zettlex) までご相談ください。最適な組み込み方法をご案内いたします。



・ 青の破線領域:

モーター取付け穴のピッチ円直径 ($\phi 35\text{mm}$) とローター内径 ($\phi 10.4\text{mm}$) の間にある金属排除ゾーンです。ローター背面からステータ電子基板背面までの3mmの範囲には、金属を配置しないでください。

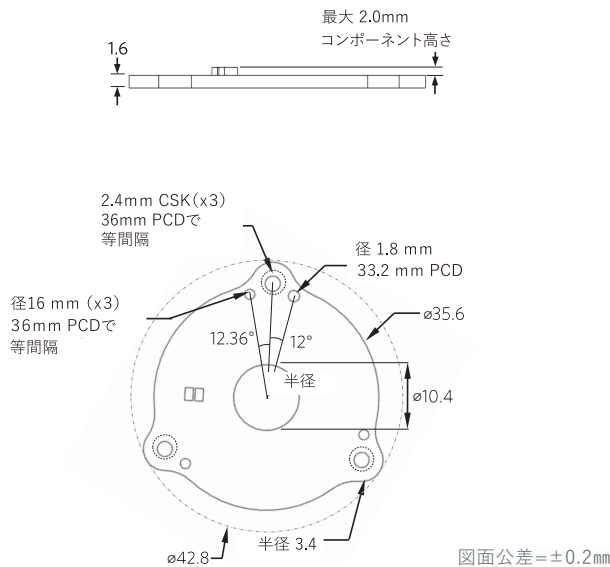
・ 緑の破線領域:

ステータ外径 ($\phi 44\text{mm}$) とローター取付け穴のピッチ円直径 ($\phi 36\text{mm}$) の間にある金属排除ゾーンです。こちらも、ローター背面からステータ電子基板背面までの範囲に金属を配置しないようにしてください。

重要: ステータ電子基板の背面は、確実に絶縁されている必要があります。

寸法図

ローター



ステータ

